

公開情報 2016年1月～12月 年報

院内感染対策サーベイランス 新生児集中治療室部門

【新生児集中治療室（NICU）部門におけるサーベイランスの概要と目的】

本サーベイランスの目的は、新生児集中治療室（NICU）で発生する院内感染症の発生率とその原因菌に関するデータを継続的に収集・解析し、NICUにおける院内感染症の発生状況等を明らかにすることである。

サーベイランスの対象としている感染症は、敗血症、肺炎、髄膜炎、腸炎、皮膚炎、その他であり、対象とする原因菌はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、メチシリン感性黄色ブドウ球菌（MSSA）、コアグララーゼ陰性ブドウ球菌（CNS）、緑膿菌、カンジダ、その他である。これらのデータを出生体重別、感染症別、原因菌別に集計し、NICUにおけるベンチマークとなる情報を提供している。

【図表】

1. 出生体重別入院患児数・感染症発症患児数
2. 菌種別感染症発症患児数
3. 感染症分類別感染症発症患児数

【解説】

1. 出生体重別入院患児数・感染症発症患児数

2016年 年報（2016年1月～12月）では106医療機関からデータの提出があった。総入院患児数24,352人中、828人（3.4%）が感染症を発症した。

出生体重別の感染症発生頻度は、超低出生体重児（～999g）では1,222人中333人（27.3%）、1000g～1499gの児では1,583人中95人（6.0%）、1500g以上の児では21,547人中400人（1.9%）であり、超低出生体重児（～999g）が最も高かった。

2. 菌種別感染症発症患児数

感染症発症患児828人の感染症原因菌は、CNS 114例（13.8%）、MSSA 108例（13.0%）、MRSA 101例（12.2%）とブドウ球菌属が全体の約4割を占めた。次いでカンジダ28例（3.4%）、緑膿菌17例（2.1%）と続いた。またその他の菌種の報告は245例（29.6%）、菌不明は215例（26.0%）であった。

公開情報 2016年1月～12月 年報

院内感染対策サーベイランス 新生児集中治療室部門

3. 感染症分類別感染症発症患児数

感染症発症患児 828 人の感染症分類は、敗血症 293 例（35.4%）と肺炎 207 例（25.0%）が全体の 6 割を占め、皮膚炎 74 例（8.9%）、髄膜炎 25 例（3.0%）、腸炎 24 例（2.9%）と続いた。

2016 年のデータが未提出の 7 医療機関は集計対象外とした。下記の基準に該当する医療機関に問い合わせを行った結果、集計から除外した施設はなかった。

データの精度管理

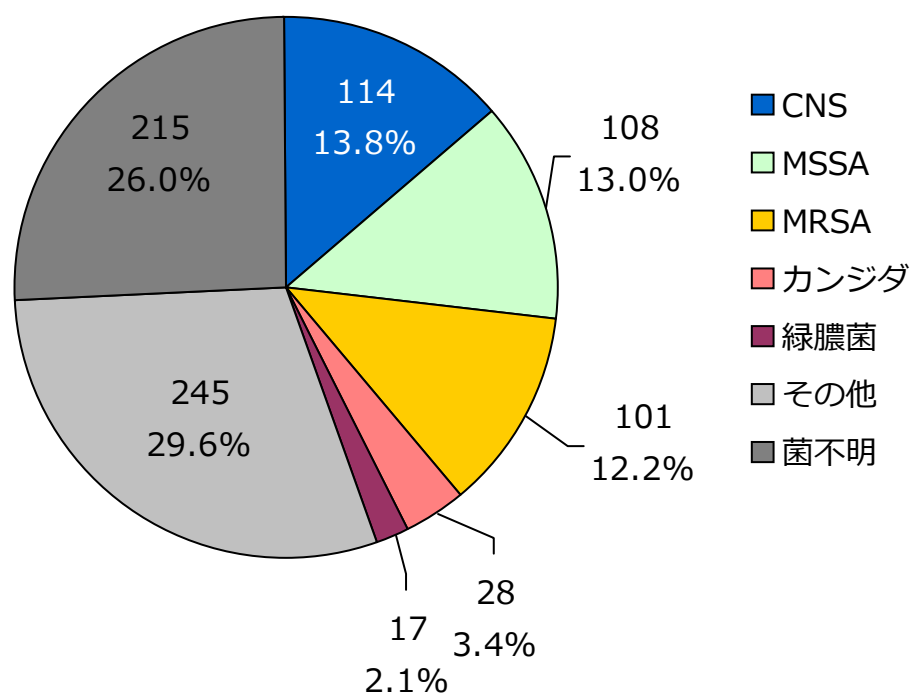
- 菌種別および感染症別の年間発生率が高く逸脱している（極値）。
- 年間入院患児数の報告がない。

1. 体重別入院患児数・感染症発症患児数

体重	入院患児数	感染症発症患児数	感染症発生率
～999g	1,222	333	27.3%
1,000～1,499g	1,583	95	6.0%
1,500g～	21,547	400	1.9%
合計	24,352	828	3.4%

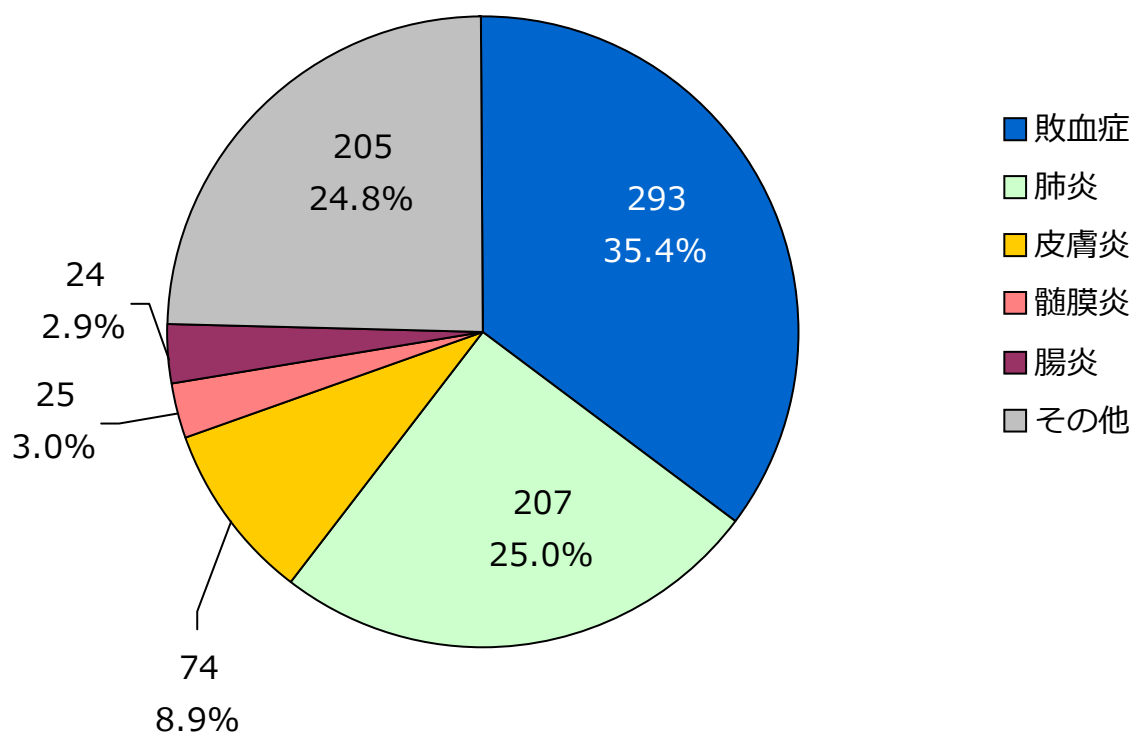
(集計対象医療機関数：106)

2. 菌種別感染症発症患児数 (N = 828)



(集計対象医療機関数：106)

3. 感染症分類別感染症発症患児数 (N = 828)



(集計対象医療機関数：106)